

〈学力調査〉【国語】

- 文脈に即して漢字を正しく読むなど、「言語についての知識・理解に関する問題」では全国・県の正答率を大きく上回っていた。日頃の反復練習によって基礎学力が定着している。
- 「話し合いの話題や論点を捉える問題」や、話し合いでの質問者の意図を捉える「話す・聞く能力に関する問題」では全国・県の正答率を大きく上回っていた。「聴く・考える・伝える活動」を意識した授業展開や落ち着いた学習環境づくりの取組の成果が出ている。また、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように表現する問題」においても正答率が高く、表現すること（伝える活動）を意識した授業や主張作文発表会・調べ学習のまとめの発表などの取組が成果をあげている。
- 文章に表れているものの見方や考え方を捉える問題に課題が見られた。

〈学力調査〉【数学】

- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかといった「数と式に関する問題」では全国・県の正答率を大きく上回っていた。基礎学力が十分定着している。
- 与えられたデータから中央値を求める「資料の活用に関する問題」や、与えられた表やグラフから必要な情報を読み取るといった「関数に関する問題」は全国・県の正答率を上回っていた。数学的な「読解力・思考力」を高める授業改善の成果が出ている。
- データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明するといった、数学的な「表現力」を問われる問題に課題が見られた。

〈学習状況調査〉

- 「家で計画を立てて勉強をしている」「学校の授業時間以外での勉強時間（塾・家庭教師も含む）が2時間以上」という生徒の割合が全国平均をかなり上回っており、家庭学習に取り組む意欲が高い生徒が多い。また、1日あたりのゲーム時間は全国平均より少なく、メディアコントロールが実践できている。
- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」という質問に対して「やり遂げようとしている（どちらかといえばしようとしている）」と回答した生徒が100%と極めて高く、目標達成に向けて粘り強く頑張る生徒が多い。
- 「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」という質問に対しては「あてはまる（どちらかといえばしようとしている）」と回答した生徒の割合が低く、自分の意見や考えを全体場で表すことは苦手なようである。

学校としての対応・目標

- ・学習規律を徹底し、落ち着いた学習環境を整える取組を継続し、すべての生徒に「聴く・考える・伝える（表現する）」場を確保し、生徒が主体となる授業づくりを行う。
- ・予習型の課題に取り組むことで家庭学習と授業内容のつながりを大切にし、計画的に家庭学習に取り組む習慣を身につけさせるとともに、生活ノートやアンケート等を通して学習習慣について把握し、メディアコントロールも含めた注意喚起や家庭との連携を図る。

以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。